

1. 本時の位置付け

本時は、高等学校学習指導要領(平成30年告示)及び同解説【公民編】に記載されている以下の内容の一部と関連します。

展開①	【備える】 社会保険と民間保険	<u>公民科</u> B(3)ア (ウ) 職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解すること。 <内容の取扱い> ・「財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」については関連させて取り扱い、国際比較の観点から、我が国の財政の現状 や少子高齢社会など、現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて扱うこと ・金融とは経済主体間の資金の融通であることの理解を基に、金融を通じた経済活動の活性化についても触れること。
展開②	【貯める・増やす】 資産形成の基本 (長期・積立・分散)	<解説> ・疾病や失業、加齢など様々な原因により発生する経済的な不安やリスクを取り除くなどして生活の安定を図り、人間としての生活を保障する社会保障制度の意義や役割を理解できるようにする ・金融の意義や役割 ・様々な金融商品を活用した資産運用に伴うリスクとリターン ・経済活動や起業などを支える金融などの働き

また、金融リテラシー・マップとの関係では、「分類4 金融分野共通」、「分類5 保険商品」、「分類7 資産形成商品」の学習を含んでいます。

2. 本時の目標

- ・ リスクに備える方法として保険という仕組みがあること、日本の社会保障制度の概要を理解する。
- ・ 自助、共助、公助のうち自助の一つに金融商品による資産形成が含まれることに気づき、金融の意義やリスクとリターンの関係を理解する。
- ・ リスクを抑える方法として「長期・積立・分散」があることを理解し、自助、共助、公助が最も適切に組み合わせられるようにするにはどうすればよいかについて考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

3. 評価のポイント

- ・ リスクに備える方法として保険という仕組みがあること、日本の社会保障制度の概要を理解している。
- ・ 自助、共助、公助のうち自助の一つに金融商品による資産形成が含まれることに気づき、金融の意義やリスクとリターンの関係を理解している。
- ・ リスクを抑える方法として「長期・積立・分散」があることを理解し、自助、共助、公助が最も適切に組み合わせられるようにするにはどうすればよいかについて考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。

4. 本時の流れ ※「学習活動」及び「指導上の留意点」の#は、標準講義資料のスライド番号を示している。

	テーマ	学習活動(●は教師の活動、○は生徒の活動)	指導上の留意点
導入 3分	社会保障制度と自助でリスクに備える	●本時は社会保障制度と自助でリスクに備えること、自助を充実させる方法として資産形成の基本について学習することを説明する。	
展開① 15分	社会保険と民間保険	公助・共助と自助の関係をどのように考えるべきだろうか？ (問)人生のリスクにはどのようなものがあるだろうか？ (#60)【ワークシート1(1)①】 ●リスクに備える方法として保険という仕組みがあることを解説し、日本の社会保障制度について解説する。(# 62～64) ●自助、共助、公助のうち、共助・公助は公的なものであり、社会保険料や税金などで賄われるが、自助は自分で備えるものであり、その具体例が預貯金や投資、民間保険への加入であることを理解させる。(# 61、62、65) ○日本の社会保障制度の概要をワークシートにまとめる。 (問)実際にある民間保険はどれだろうか？(# 66～67) ●クイズでは全て該当することを解説する。 ●展開②では、民間保険は預貯金や投資と何が違うのか学習することを説明する。	・#63は#18と関連させ、社会保険料は保険料(収入に応じて負担)と税金で運営することを理解させる。 ・#68は展開②の後半で扱う。
展開② 25分	資産形成の基本(長期・積立・分散)	自助を充実させるための方法として投資は有効なのだろうか？ (問)資産形成のうち、預貯金以外の方法として投資がある。投資にはどのようなイメージがあるだろうか？ ○2人1組になり、意見を交換する。 ●金融商品による資産形成の方法として預貯金と投資があり、目的に応じた金融商品を選択する必要があること、また資産形成と経済活動の関係性、投資の社会的意義について解説する。(# 35→#33、34) ●金融商品には安全性、収益性、流動性の3つの観点があり、リスクの考え方が保険とは異なることを説明する。(# 37、38) ○気づいたことをワークシートにまとめる。 (問)元本保証されていて大きい利益が期待でき、必要な時にすぐに換金できる金融商品は存在するか？(# 31) ●クイズの解説と合わせてリスクとリターンの関係やリスクの種類を理解させる。(# 32～40) ○クイズに答え、ローリスク・ハイリターンの金融商品はないことを理解する。 (問)リスクを抑えるためにできることは何だろうか？(# 45) ●投資における長期・積立・分散の意義について3人1組になり、生徒それぞれに調べさせ、グループ内で発表させる。(# 46～54) ○投資における長期・積立・分散について、端末を用いて調べ、その内容をグループ内で確認する。また、長期・積立・分散を継続するポイントを考察する。 ●資産形成と保険の違いを確認させる。(# 68) ○気づいたことをワークシートにまとめる。	・中学校・社会で学習した間接金融・直接金融について触れ、資産形成と経済活動の関係性が分かるようにする。また、家庭科で学習した資産形成に触れ、関連性が分かるようにする。 ・株式投資、債券投資、投資信託の特徴と仕組みなどは概要のみの説明でもよい(# 17～18、#25～29、#36、#41～44) ・長期では単利と複利、積立ではドル・コスト平均法、分散では資産・地域・分散の意味を理解させる。ただし、生徒の実態に合わせて解説の方法や内容を工夫したい。

	テーマ	学習活動(●は教師の活動、○は生徒の活動)	指導上の留意点
まとめ 7分	社会保障制度と自助(でリスクに備える)	●本時の学習を振り返る。 ●2024 年 1 月から NISA 制度が新しくなったことを説明し、政府も家計の資産形成を後押ししていること、また、社会保障制度と合わせて自助によってさまざまなリスクにも備える必要性を理解させる。(＃55～58) (問)自助、共助、公助が最も適切に組み合わせられるようにするにはどうすればよいだろうか？(＃62) ○本時の学習を振り、気づいたこと、学んだこと、もっと学習してみたいことなどをまとめる。【ワークシート 3】	

5. ワークシートの解答・解答例

ワークシート

社会保障制度と自助でリスクに備える

年 級 番 名 前

1. 社会保障と民間保険

(1) リスクに備える保険

人生のリスクにはどのようなものがあるだろうか？

ケガ、病気、交通事故、火事などの災害に遭う、長生き など

→ リスクに備える方法として、(保険) という仕組みがある

(2) 日本の社会保障制度と自助、共助、公助の考え方

	考え方	主な財源	具体的な行動や制度
自助	自ら働き、自分の健康や生活は自分で守る	自分のお金	✓ 預貯金・投資 ✓ 民間保険への加入
共助	生活上の様々な困難に対して、社会連帯の考え方で支え合う	社会保障料	✓ 社会保障 年金、医療、介護、雇用、教育
公助	特定の人々の生活を公的に支援する	税金	✓ 社会福祉 障害者福祉、児童福祉等 ✓ 公的扶助、生活保護

→ 自助の具体的な行動として、預貯金・(投資)、民間保険への加入などがある

↓

目的に応じた金融商品を選択する必要がある

気づいたことを記入しよう

(表紙)

2. 資産形成の基本(長期・積立・分散)

(1) 金融商品の3つの視点

(安全性)・(収益性)・(流動性)

保険とは異なり、リスクとは運用成果の(揺れ幅)のことを指す

(2) リスクとリターンの関係

※一般的なイメージ図であり、すべての金融商品が当てはまるものではありません。

→ (ローリスク・ハイリターン)の金融商品は少ない！！

(3) リスクを抑える長期・積立・分散投資とは

ポイントを以下の表にまとめよう

長期	積立	分散
➢ 長期投資 ➢ 商品の安定性 ➢ 72の法則	➢ 一挙購入でなく、一定額を定期的に購入し、(ドル・コスト平均法)、購入期間の分散させる	➢ ひとりのみに頼り過ぎるな ➢ 資産、地域、銘柄の分散

→ 2024 年 1 月から長期・積立・分散投資を推進する(NISA) (少額投資非課税)制度が拡充

3. おわりに

自助、共助、公助が最も適切に組み合わせられるようにするにはどうすればよいだろうか。本日学んだことや感想と合わせて書いてみよう。

(表紙)

社会保障制度と自助でリスクに備える

年 組 番	名前
-------	----

1. 社会保険と民間保険

(1) リスクに備える保険

人生のリスクにはどのようなものがあるだろうか？

→ リスクに備える方法として、()という仕組みがある

(2) 日本の社会保障制度と自助、共助、公助の考え方



→ 自助の具体的な行動として、預貯金・()、民間保険への加入などがある



目的に応じた金融商品を選択する必要がある

気づいたことを記入しよう

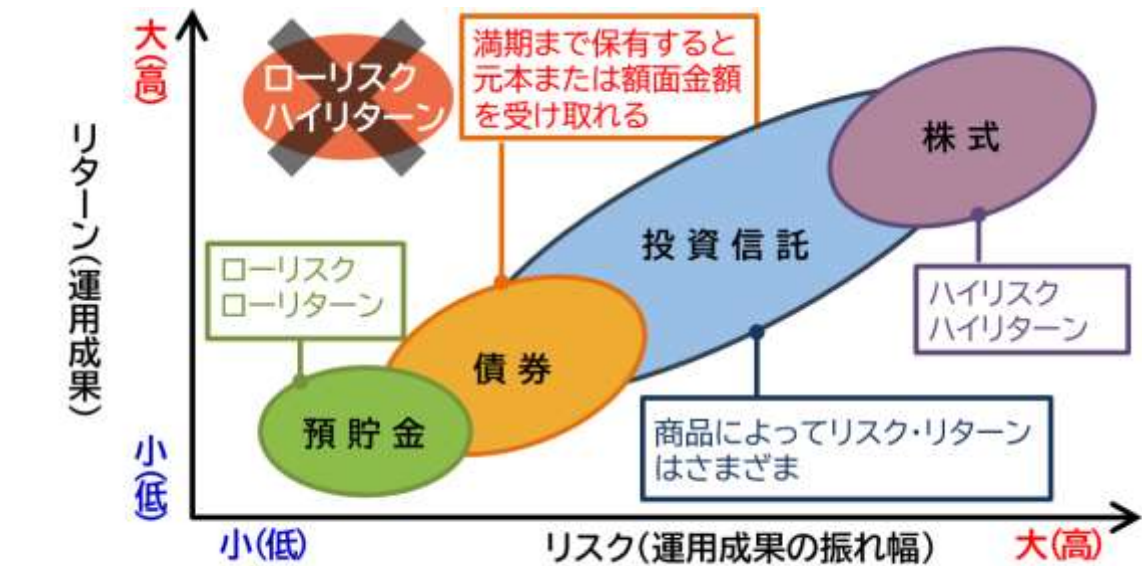
2. 資産形成の基本(長期・積立・分散)

(1) 金融商品の 3 つの観点

()・()・()

保険とは異なり、リスクとは運用成績の()のことを指す

(2) リスクとリターンの関係



※一般的なイメージ図であり、すべての金融商品があてはまるものではありません。

→ ()の金融商品はない！！！！

(3) リスクを抑える長期・積立・分散投資とは

ポイントを以下の表にまとめよう

長期	積立	分散

→ 2024 年 1 月から長期、積立・分散投資を推進する()(少額投資非課税)制度が拡充

3. おわりに

自助、共助、公助が最も適切に組み合わせられるようにするにはどうすればよいだろうか。本日学んだことや感想と合わせて書いてみよう。